

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	2071100339		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ信州中野サンフラワー		
所在地	長野県中野市吉田字中河原1137-1 (電話) 0269-24-6667		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年9月6日	評価確定日	平成19年10月9日

【情報提供票より】(平成19年 8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤13人, 兼任 1人, 常勤換算13.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	15 名	男性 3 名	女性 12 名
要介護1	5	要介護2	6
要介護3	1	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 81.73 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小田切医院・みゆき歯科・厚生連北信総合病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福祉事業を全国的に展開している運営法人が、中野市に昨年開設したサンフラワーは、母体の協力もあり短期間で中身のあるグループホームになった。また同時に、利用者や家族は出来たばかりのグループホームという戸惑いはなく、安心して利用できている。職員は「ひとり一人の胸の中の思いを大切に、その人らしい生きがいの持てる人生を支援していきます。」という理念を心にとめて入居者に接し、入居者の何気ない言葉にも耳を傾けるなど、プロとして日々努力している。サンフラワーの花言葉、「敬慕・あなたを見つめる」の如く、「入居者を心から尊敬してその人に近づきたい」という想いを大切に、個別ケアを重視したぬくもりのあるホームではないかと感じた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価であった。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は限られたメンバーにより行われたが、自己評価や外部評価の目的や活用については管理者から全職員に説明されている。実際に自己評価したことで、自分のケアについて振り返ることができ、評価することの必要性を感じている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホーム側からはホームの活動内容などを報告している。参加者からは、ターミナルケアや地域にもかわら版を回覧することについての議題がだされ、意見交換し検討している。ターミナルケアについては、地域密着型サービスを展開していくためにも、看取りの対応指針を作成し、最後まで地域で過ごせる方向で進めている。また、かわら版の回覧については、個人情報のあることもあり、慎重に進めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭面など個別に手紙等で定期的に報告をしている。面会時には家族から意見や要望を聞いている。家族によっては、事務所に立ち寄り話してから帰る方もいて、話をしやすい雰囲気づくり(事務所で話す等)や家族との良好な関係が窺えた。また、意見や要望は、会議で報告され検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	積極的に地区の作業活動や会議に参加して地域住民との交流を深めている。定期的な訪問者や世代を越えた交流などがあり、地域に開かれたホームを目指している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を踏まえた内容であり、法人とは別に事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には理念を伝え、内容や意義を説明している。また、毎朝理念を唱和することで何を大切に入居者と向き合うのか確認している。サービス提供場面においても理念を意識しながら実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として地区の作業(草刈り、清掃等)に参加したり、自治会の会議にも出席するなど地元の活動や住民との交流に積極的に取り組んでいる。近くの老健施設の夏祭りに出掛けたり、保育園児との交流会や入居者の友人の音楽会なども定期的に行われ、地域に開かれたホームを目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には初めて取り組んだこともあり、管理者、ユニットリーダーらが中心に行ったが、サービス評価の意義や目的については管理者が職員に説明している。自己評価を行い、自らのケアを振り返ることが出来た。	○	自己評価は全職員で行い、サービス内容の振り返りや見直しに役立てていただきたい。

ツクイ信州中野サンフラワー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催回数はまだ少ないが、開始当初からメンバーは協力的であり、積極的に意見交換が行われている。今後メンバーに地区消防団の方の参加をお願いする予定がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険担当者が出席するケアマネ会議(月一回開催)で事例検討を通してホームの様子やケアの取り組みなどを報告している。また、介護保険の代行申請等でも窓口を訪れるなど関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ユニット毎にかわら版を発行し、暮らしぶりや行事等を写真入りで報告している。健康状態や金銭(領収書添付)等について毎月個別に手紙を添えて知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や訪問時に家族から意見や要望を聞くように働き掛けている。帰り際に事務所に立ち寄り話をしてから帰る家族もいる。意見や要望は会議で報告し検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し顔馴染みの職員によるケアに心がけている。やむを得ず職員が交代する場合でも、入居者への影響を考慮し、研修期間は、指導職員と同じシフトで動き、業務や考え方などを伝達している。	○	職員の異動等にかわら版などでも紹介し、家族にも知らせていただきたい。

ツクイ信州中野サンフラワー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人の年間計画があり、それに参加しながら計画的に職員教育が行われている。また、単発の研修については管理者から紹介があり、希望すれば参加もできる。研修報告は全体会議で発表され共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する検討会や連絡会等に管理者が出席し、他ホームとの交流の機会を設けている。また、グループホームを含めた他法人の職員外部研修の受け入れをしており、意見交換や交流の機会を設け質の向上に努めている。	○	地域のグループホーム連絡会に参加予定がある。連絡会に参加し学習会や交流を持ちサービスの質の向上を目指していただきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあってもすぐに利用を開始するのではなく、体験利用を通して徐々に馴染んでもらい、納得の上で利用していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩という尊敬の念を全職員は持っている。「疲れた」と言うと入居者から「人生はこういう道なのだから頑張りなさい」と励まして力を貸してくれる。入居者が落ち込んでいる時には、気分転換に散歩に誘ったり話を傾聴している。入居者は沢山の知恵を持っていて、いろいろな場面で教えてもらうことが多い。		

ツクイ信州中野サンフラワー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者が何気なく話した言葉や表情、つぶやき等から暮らし方の希望、意向の把握に努め、また、表出が困難な入居者に関しては、家族を交えて検討するなど一人ひとりにあった取り組みをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の視点に立って、その人らしく暮らし続けられるための支援が盛り込まれた目標指向型の介護計画が作成されている。アセスメントを含め全職員はよく話し合い、モニタリングやカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画になるように、定期的な見直しをしている。また、状態や変化に応じて随時の見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって通院や受診に付き添っている。個別の希望に応じて、買い物や図書館への外出など利用者の満足度を高める支援をしている。	○	通所系サービス、短期宿泊サービスの支援に関しては更に前向きに取り組んで頂き、地域のニーズに応じて頂きたい。

ツクイ信州中野サンフラワー


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居者や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は職員が家族に代わって付き添い、入居者の状態を報告し適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しての利用継続については、家族からの強い要望もある。終末に対する対応指針を検討するなど前向きに検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報の漏えい防止等についてはマニュアルが作成されている。誘導の声かけや入居者への話しかけはやわらかく温もりを感じた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大まかに決まっているが、入居者の要望があれば柔軟に対応している。		

ツクイ信州中野サンフラワー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は買い物から作るまでを一人ひとりが出来るところで参加している。ホームの畑で作った野菜が食材として使われている。入居者と職員が同じテーブルを囲み、同じものを食べている。楽しく食事出来るよう雰囲気づくりにも心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、いつでも入浴できる体制となっている。夜間入浴が多いが、朝入浴する入居者もいるし、仲の良い入居者は一緒に入るなど一人ひとりの気持ちや習慣に合わせてながら支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援している。農業をしていた入居者が多いこともあり、畑には季節毎に野菜を作っている。畑から収穫した野菜を使っての料理の下ごしらえや買い物先での品物選び、洗濯物の取り込みやたたみ等、個々の得意分野で力を発揮してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を毎日散歩している。また、毎日職員の運転する車に乗って買い物にも出かけている。お弁当持参で花見や紅葉狩りなど四季折々の外出は入居者と相談しながら計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある入居者の行動パターンを把握している。離設も想定し、近隣住民には協力をお願いしている。		

ツクイ信州中野サンフラワー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施している。災害対策マニュアルがある。職員は、避難経路や消火器の使い方などを確認している。また、災害に備えて飲料水、食料なども準備してある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個別チェック表に記録している。また、水分量は大まかに把握されている。他施設の献立メニューを参考にしたり、一日一回乳製品をつけるなど栄養バランスの良い食事の提供に努めている。栄養士の資格のある職員がいるので今後は更にきめ細やかな対応が期待できる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は明るく大きな窓の向こうには線路がみえる。テレビを見ている人、料理の下ごしらえで野菜を切っている人、窓の向こうに走る電車を眺めながらおしゃべりをしている人がいる。その様子はのどかな雰囲気があり、休日の家族の団欒のようにもみえた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して持ち込んだ物（家族の写真や仏壇、または人形やカレンダー、本など）で居室は個性的になっていた。入居者のお一人の方が毎朝ご主人の遺影に向かって話しをしていると笑顔で語ってくれた。		

※  は、重点項目。